**添付資料１**

**2024年　OECD/NEAインターン業務の概要**

●インターン業務内容

OECD/NEAは、本年11月、日本の大飯発電所を中心としてINROW（International Nuclear Regulatory Oversight Workshop）を開催予定しています。このINROWは規制活動の一つであるROP(Reactor Oversight Process：原子力発電所を効率的に監督するプロセス)の原子力規制庁の取り組みをNEAが中心となりレビューし、より効果的なものとすることを目的としたワークショップです。

今年度のインターンシップはこの会議の事前準備と、会議中の11月15日の支援業務が中心となります。具体的には、

・電事連・関電と国際メンバー（米国、英国、フランス等）間の調整、日本側の規制庁、電事連、関電、等）との調整

・会議資料作成、原子力規制検査に関する文書の翻訳作業、等（会議前の数か月は、多くの準備会合や多くの資料作成・翻訳作業が必要になってくると予想）

・ロジ面（宿泊、受付、会場設営、マイク、IT、弁当、等）の準備

・15日当日の仕切り（当日、インターン生の元に5名前後のサポートを付けて運営予定）

・その他支援（上述の項目に限らずフレキシブルに対応要）

●インターン時期

・第一希望※：2024年6～11月（パリでのインターン期間を5～6か月間として、INROWのタイミングで帰国して頂き、最後の一週間は日本でINROW対応のために支援頂く）

・第二希望：2024年8～11月（パリでのインターン期間を3か月間として、INROWのタイミングで帰国して頂き、最後の一週間は日本でINROW対応のために支援頂く）

※：スケジュール上から難しい場合、日本から遠隔で研修を始める事も検討

●インターン生の要件

・日本語と英語が堪能である事（こちらが第一条件）

・世界各国の方と交流できるコミュニケーション力があり、その場で臨機応変に対応頂けるフレキシビリティがある事が望ましい

・原子力分野にある程度精通してる事（但し上述の日本語と英語でコミュニケーションがマストの条件になり、こちらはある程度譲歩できる条件）

●その他

・OECD/NEA職員が6月25日の週に日本出張を予定しており、その際にインターン（候補）生と面談可能性を検討中

・滞在費としてOECD/NEA側から月1000ユーロの支給があり大学連合の費用と併せると十分パリで暮らせます。